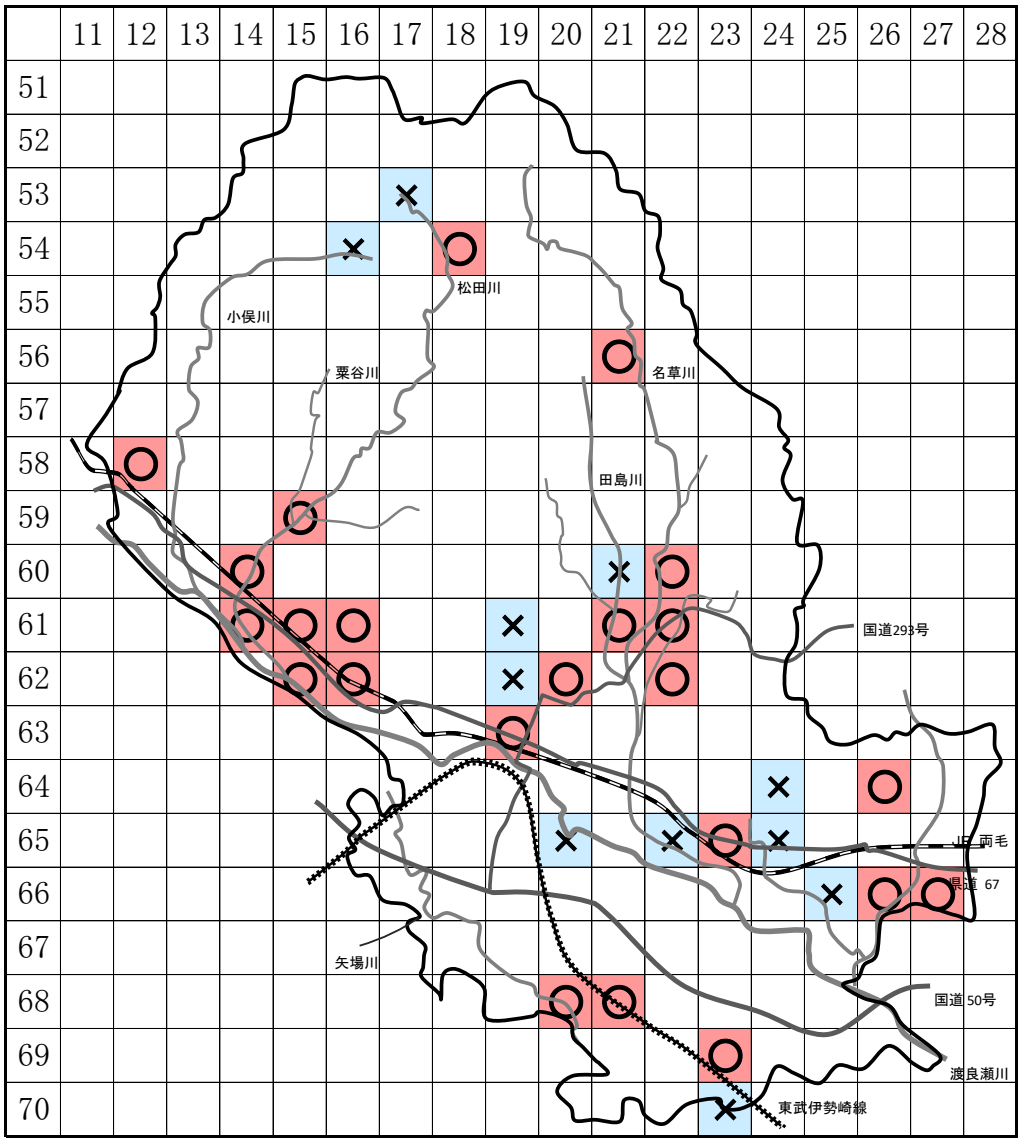
どじょう

確認数：	23	メッシュ
報告数：	34	メッシュ

2019年度 30/46　2018年度 30/48

※過年度　確認数/報告数



小動物や藻類などを食べる雑食性で、5月から7月が産卵期。雄のほうが雌よりやや小さく胸ビレが比較的長いようである。

えらでの呼吸の他に腸での呼吸もできるため、直接水の表面から空気を吸い込むようすが見られる。さらに、皮膚でも呼吸できるため水がない渇水期には、泥の中で過ごす。

観察適期
4月～10月

・生き物が見つかったメッシュ …… ○ 印で表示

・生き物が見つからなかったメッシュ …… × 印で表示

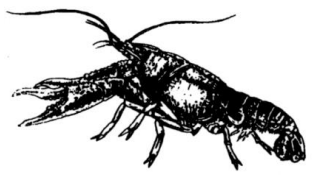
調査結果

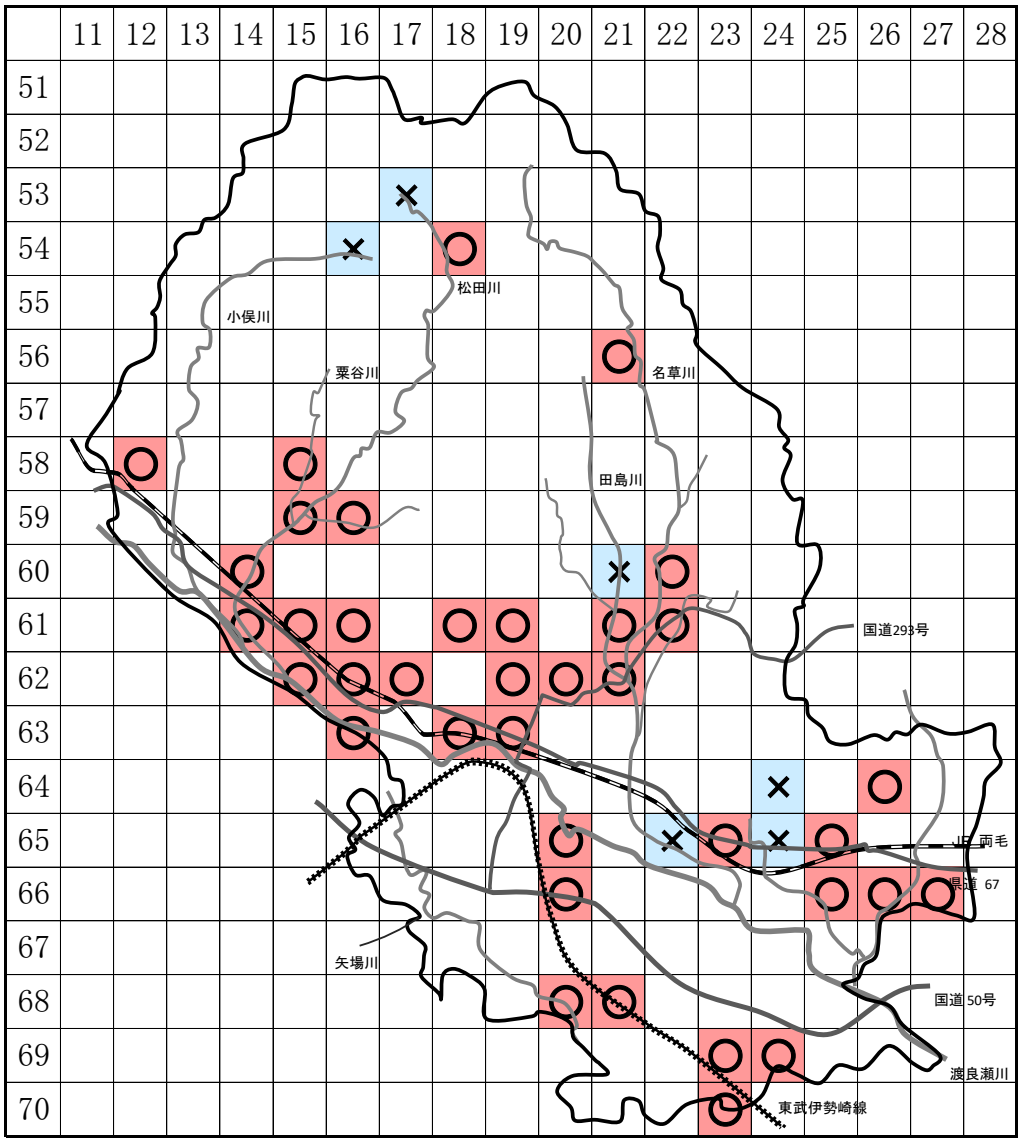
川辺から眺めただけでは発見が難しいですが、確認メッシュの割合が60％を越えており、調査方法が定着したように思われます。相変わらず市内に広く分布しているようすで、市内の主だった河川を中心として継続して水田地帯の小川、用水路に生息しているようすがうかがえます。

アメリカザリガニ

確　認　数 ：	37　メッシュ
報　告　数 ：	43　メッシュ
2019年度　41/51	2018年度　42/53

※過年度　確認数/報告数





昭和のはじめ、食用ガエルのえさとして輸入され全国に広まった。いわゆる“帰化動物”の代表。最近は数が減ってきている。

（ただザリガニというと日本特産の種類で、アメリカザリガニよりやや小さい。北海道・東北北部の水のきれいな河川・湖沼にすむ。）

観察適期
5月～10月

・生き物が見つかったメッシュ …… ○ 印で表示

・生き物が見つからなかったメッシュ …… × 印で表示

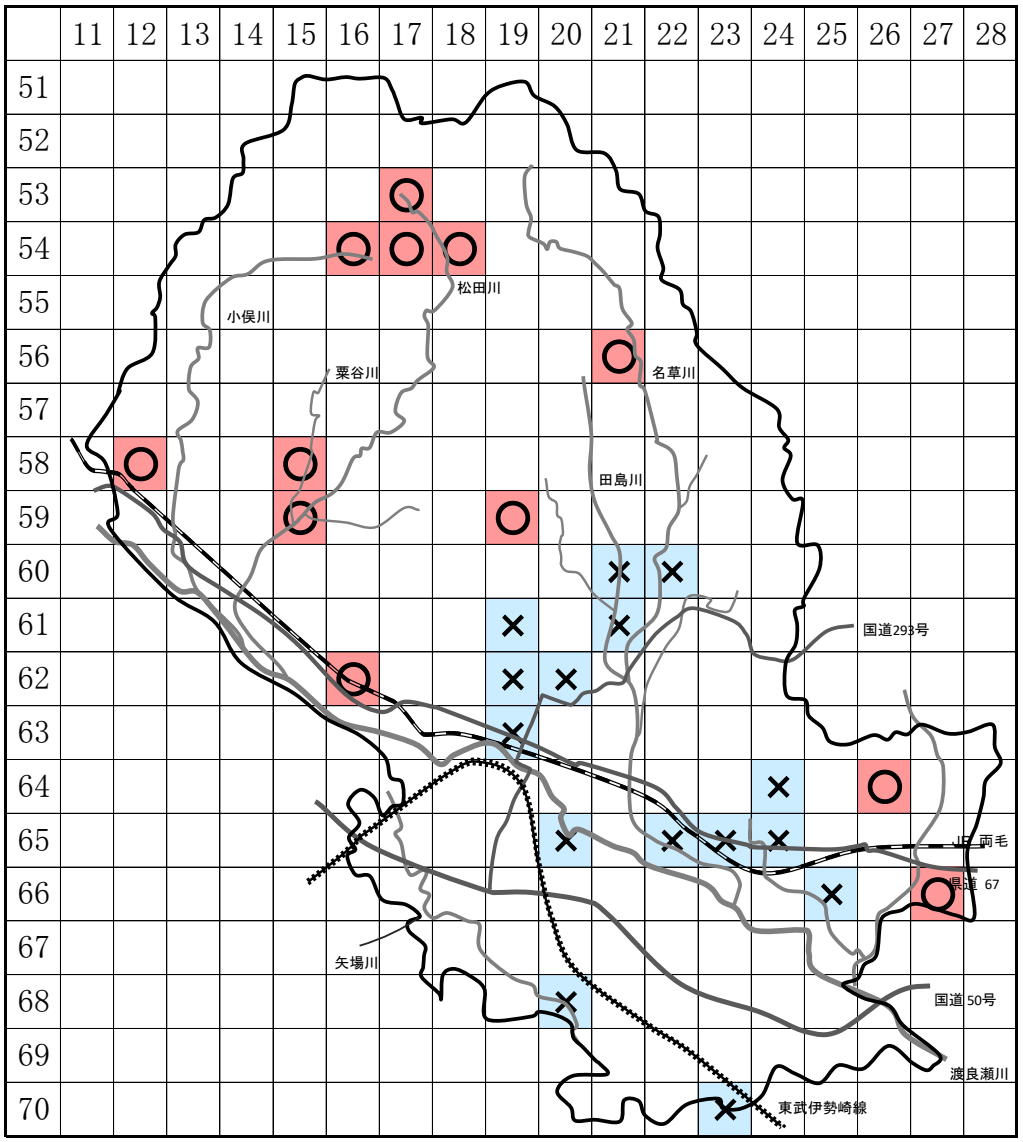
調　査　結　果

調査報告数に対して出現率が引き続き高い結果が出ています。大きな生息域の変化はないようです。多くの河川で上流部まで進出しています。地域の違いや時期の違いと、個体の大きさの変化の関係などに注目して観察していただきたいと思います。

サ　ワ　ガ　ニ

確　認　数　：	12　メッシュ
報　告　数　：	27　メッシュ
2019年度　19/46	2018年度　11/42

※過年度　確認数/報告数



日本ではただ一種の淡水産のおなじみのカニである。水のきれいな小川や山地の渓流に見られる。甲の色は茶褐色、うす青色、うす黄色などの変化がある。近年、水の汚れが進み、次第に生息場所がせばめられてきている。

観察適期
5月～10月

・生き物が見つかったメッシュ …… ○ 印で表示
・生き物が見つからなかったメッシュ …… × 印で表示

調　査　結　果

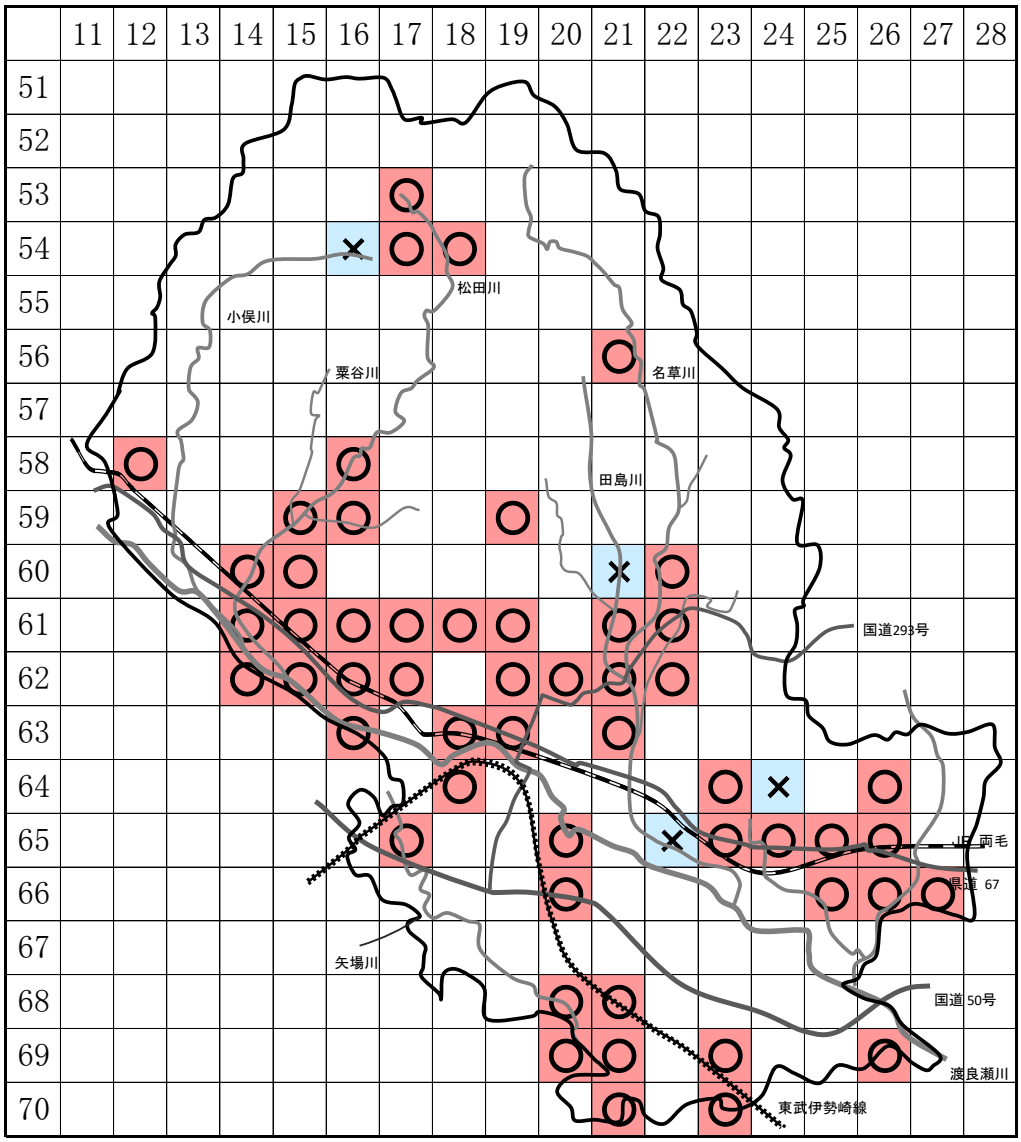
各河川の上流域で、継続して生息が確認されているようですが、ほとんどの河川で市街地に近い所から下流での確認ができていません。生息地域が限られているようすがみられます。

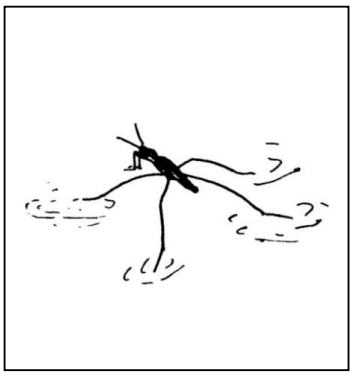
アメンボ

確認数：	53	メッシュ
報告数：	57	メッシュ

2019年度 56/58　2018年度 50/57

※過年度　確認数/報告数





長い足で水面をスイスイと滑走するおなじみの昆虫で、あめのような甘いにおいを持っている。池や沼、川に普通に見られる昆虫である。

観察適期
5月～9月

・生き物が見つかったメッシュ …… ○ 印で表示

・生き物が見つからなかったメッシュ …… × 印で表示

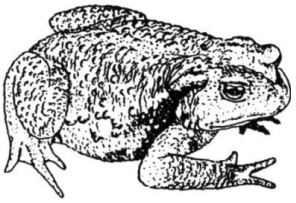
調査結果

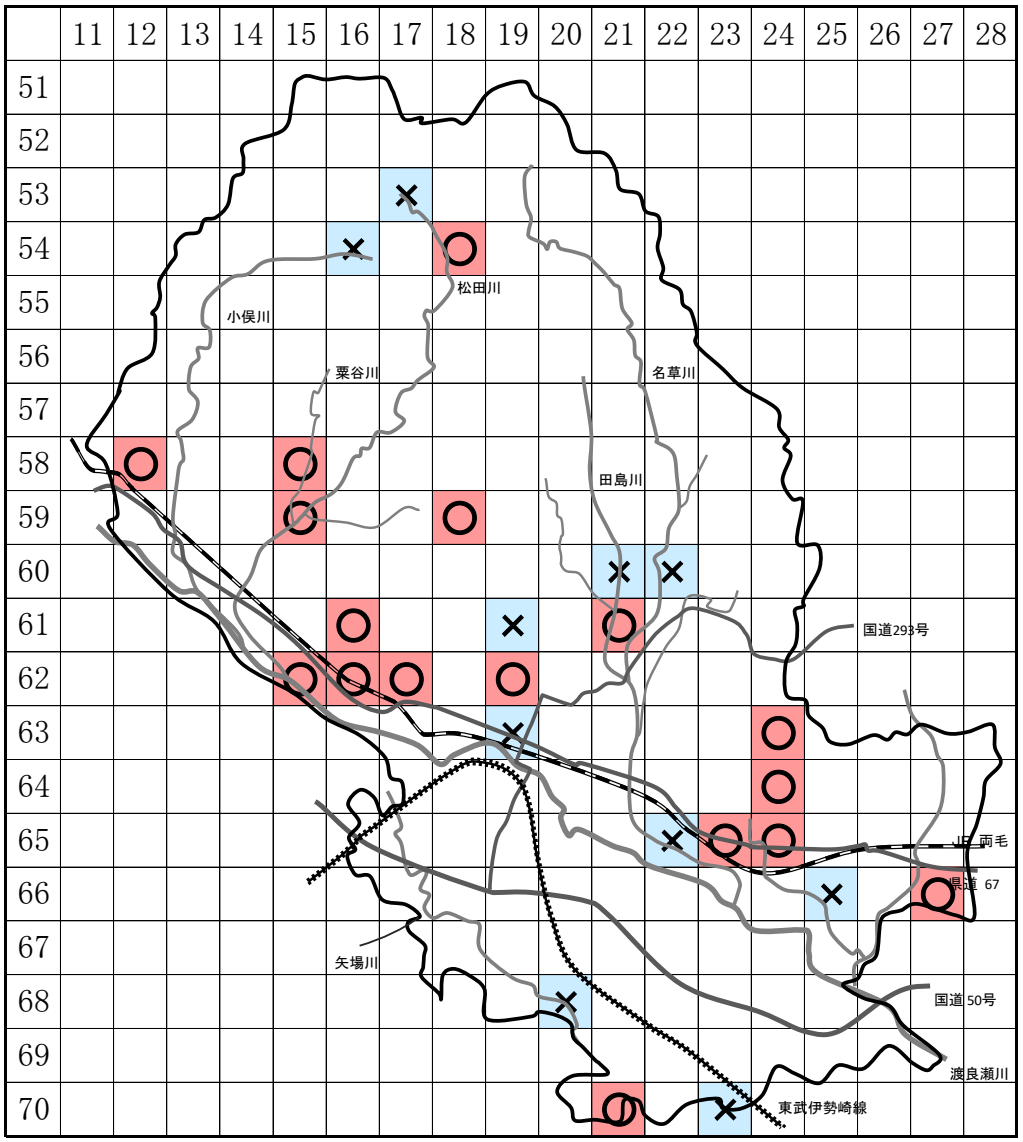
相変わらず、出現率が非常に高く、観察するときに発見しやすい生き物であることがわかります。平地でも山間部でも水田地帯を中心に広く、数も多く生息しているようすがはっきり分かります。

アズマヒキガエル

確　認　数 ：	17　メッシュ
報　告　数 ：	27　メッシュ
2019年度　17/47	2018年度　14/43

※過年度　確認数/報告数





ふつうガマガエルとよんでいる。平地や山地に見られ、人家の庭などにも現れるが、最近は少なくなっている。産卵期以外は水に入ることはほとんどない。河や池の周囲のくぼみや落ち葉の下などにかくれている。

また夜行性のため、あまり人目につかない。

観察適期

3月　産卵期

6月～8月

・生き物が見つかったメッシュ …… ○ 印で表示

・生き物が見つからなかったメッシュ …… × 印で表示

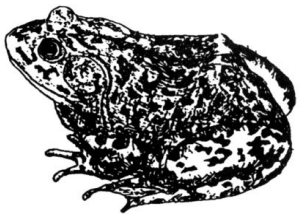
調　査　結　果

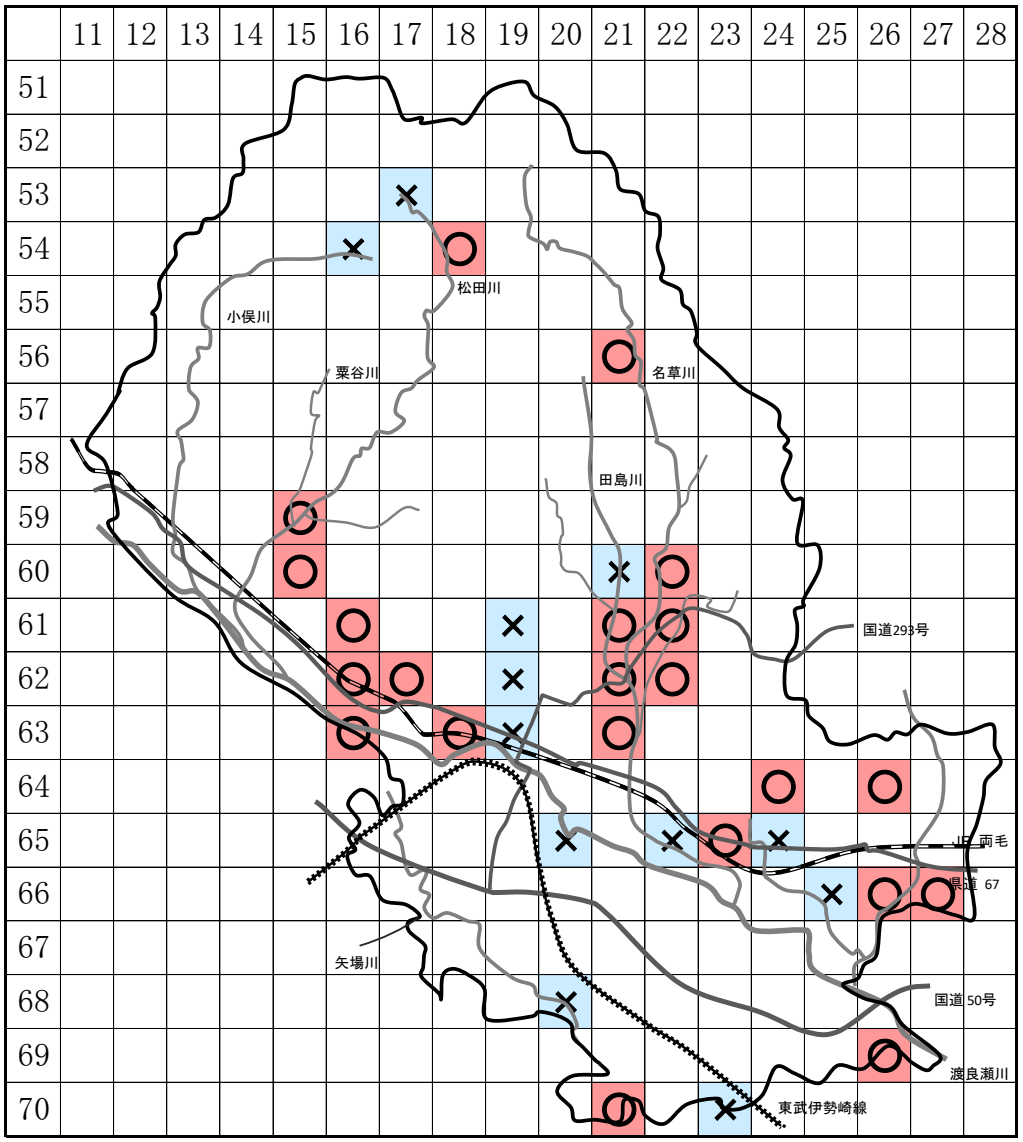
依然として生息場所は限られてきているように思われますが、山ぎわ周辺を中心に生息しているようすです。今年度久しぶりに河南地域で発見できました。また、市の東部での発見は継続しているため、見守っていきたいと思います。

ウシガエル（食用ガエル）

確認数：	22 メッシュ
報告数：	34 メッシュ
2019年度 24/49	2018年度 27/50

※過年度　確認数/報告数





食用のため北アメリカから1919年に輸入され日本各地に広がった。平地の池や、幅の広い溝や小川など水量の多い場所にすみ、夜間になるとウシのような大きな声で鳴く。行動はすばやい。

観察適期
6月～8月

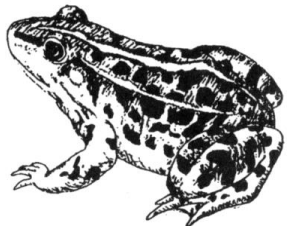
・生き物が見つかったメッシュ …… ○ 印で表示
・生き物が見つからなかったメッシュ …… × 印で表示

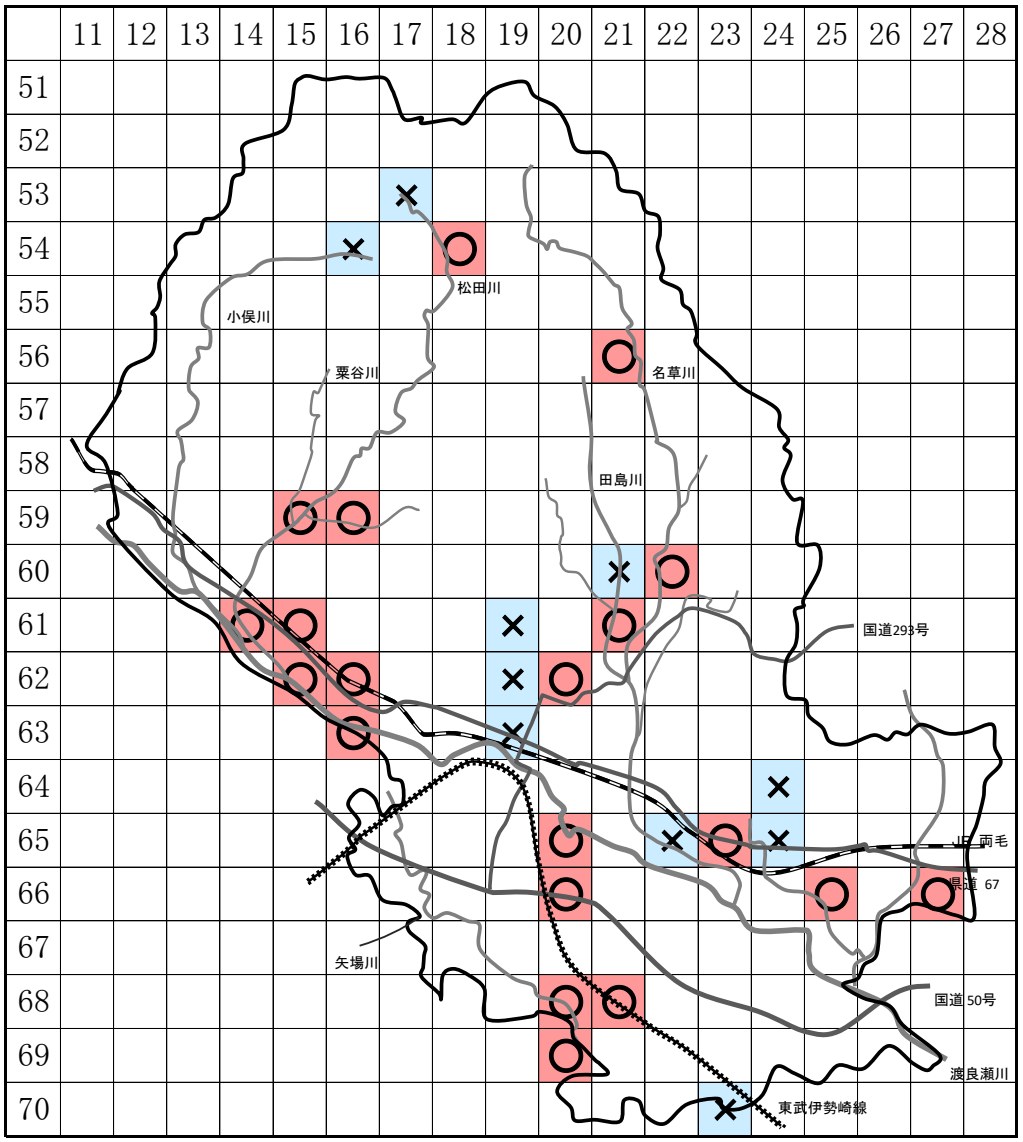
調査結果

市内の主だった河川の中・下流域で確認されているようです。例年発見が報告されなかった河川でも今年度は発見されており、積極的な調査が行われたようすがうかがえます。カエルの仲間にとって、良い環境が整ってきているのかもしれません。

トウキョウダルマガエル	確　認　数　：　20　メッシュ 報　告　数　：　30　メッシュ 2018年度　21/50　2018年度　18/45

※過年度　確認数/報告数





この辺りではトノサマガエルと言っているが、トノサマガエルは関東にはいない。体長50～60mmぐらいで、トノサマガエルに比べてやや小さく、体形は太めである。口先から後方にかけて灰褐色の地色に、一部または全部が緑色をしている。斑紋は黒褐色、ほぼ円形で数が少ない。

観察適期
6月～9月

・生き物が見つかったメッシュ …… ○ 印で表示
・生き物が見つからなかったメッシュ …… × 印で表示

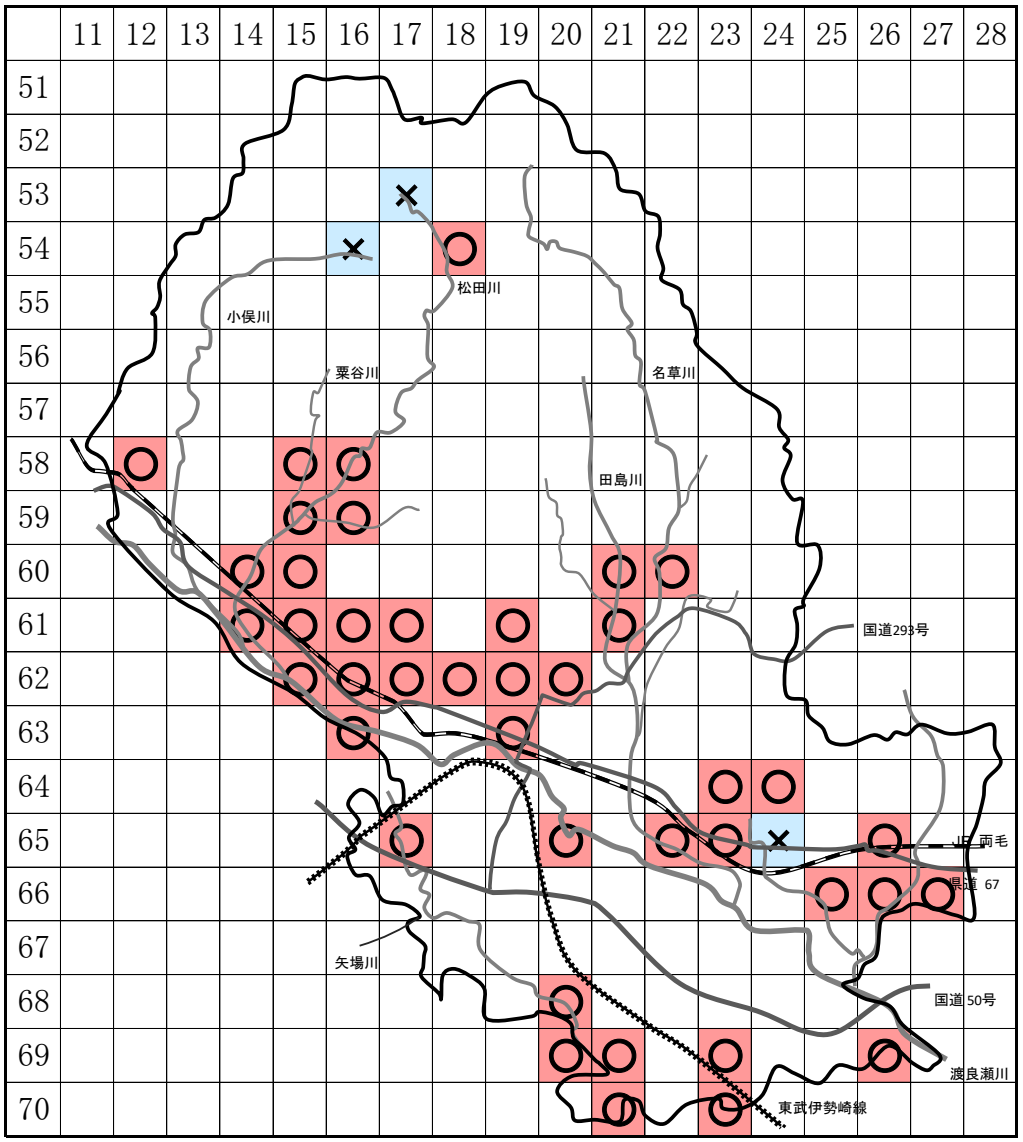
調　査　結　果

ここ数年の調査結果のようすと比べ、今年度は出現率60％となっており、市内の広範囲で生息が確認できました。今年度の調査結果を見ると、やはりカエルの仲間は発見しやすい状況があったように思われます。

ニホンアマガエル（アマガエル）

確認数：	41 メッシュ
報告数：	44 メッシュ
2019年度 50/59	2018年度 53/57

※過年度　確認数/報告数



人家の植え込みや、人家に近い低木、草むらにすむ。雨が近づくと、木や草の葉の上でさかんに鳴く。指の先の吸盤や緑色の体色は樹上生活に適している。

周囲のものに合わせて体色を変化させる。秋以降になると土の中や石垣のすき間で冬眠する。

観察適期
5月～10月

・生き物が見つかったメッシュ …… ○ 印で表示

・生き物が見つからなかったメッシュ …… × 印で表示

調査結果

山間部も含め、市内全体に広く分布しているようすに変わりはないと思われます。多くのメッシュで調査していただき出現率が大変高いです。トウキョウダルマガエル同様に、ここ数年ほかの種類のカエルと混在するようすが見られます。広い範囲で発見されていますが、近年水田が宅地となっている場所が見られ、以前のカエルの大合唱が聞こえたところで聞けなくなっているのが残念です。今後、個体数が減っていかないか心配です。